

審議会等の会議結果報告書

課所名

生涯学習課美術館

会議名 令和7年度第1回諏訪市美術館協議会

開催日時 令和7年7月18日(金) 10時00分 から 11時30分まで

開催場所 諏訪市公民館視聴覚室

出席者 (出席委員) 三澤ちえ子、押澤利満、高田一郎、輿石美和子、金井直、源馬菜穂、竹森公男、藤森民雄、宮坂武芳 (敬称略)
(欠席委員) 西村文子 (敬称略)
(オブザーバー) 玉本教育委員 ※欠席
(事務局) 三輪教育長、細野教育次長、小林生涯学習課長、濱館長、北原主査

資料 令和7年度第1回諏訪市美術館協議会 資料

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 自己紹介

4. 議事

(1) 令和6年度事業報告

(2) 第二次諏訪市教育振興基本計画に基づく令和7年度の重点的な取組について

(3) 意見交換

<主要な意見>

① 展覧会において、「市民が行きたくなる」ための仕掛け(工夫)とは具体的にどんなものが考えられるか。

- ・ 学校においては、中学校の総合的な学習の時間や小学校の遠足等「諏訪を知る」授業で、美術館のことに触れたり実際に行く機会を増やすことが大切だと思う。楽しい経験から家族で行こう、に繋がると良い。
- ・ 諏訪の歴史・文化的な土壌と関連付け、他の文化施設や学校との横の連携を含めた展開があると良い。
- ・ 間口を広げ美術館に行く人の分母を増やすことが大切。例えば無料の日など市民がお得感を感じる設定により、まずは1回美術館に足を運ぶ機会を作り、展示作品だけでなく建物の魅力や文化財的な価値を肌で感じてもらい、素敵な場所だと知ってもらい次に繋げる。
- ・ どのように横と繋がるかが大切だと思う。様々な人の営為、文化的な活動の一つとして美術があるとすれば、その他の活動や科学技術に対しても美術が伸びるほうが良い。歴史系や自然科学等ともっと繋がり、その中で地質や環境志向など、様々な視点から展示の仕組みや読み取り方を揺さぶってみても良い。
- ・ 美術と関連のない分野の専門家に、アート目線とは違うところから作品の解釈や価値を読み取ってもらうなど、いかに美術を媒介にして他の経験と繋がっていきけるか、ということ提案する機会を作っていけたら良いと思う。
- ・ 人はお茶の間にあるものに関心を持つと思うので、生活と美術の繋がりを実感できると良い。子ども達に焦点を当てても良いと思う。美術館の収蔵作品展を中心にアカデミックなことをやっても、市民との繋がりは希薄になるのではないか。

② 展覧会以外で、美術館や収蔵作品のことを身近に感じてもらう(敷居を下げる)ことに繋がる取組として具体的に何が考えられるか。

- ・ 美術館に子ども達がいつでもワークショップを楽しめる機会や場所があると良いと思う。
- ・ 美術館がもっと多くの人に来てほしいと思っている姿勢をもっと見せていくことが大切では。展覧会だけでは人が来ないかもしれないので、例えばクラシック、ジャズなどのコンサートで展示作品に関連した曲の演奏や、歴史関係のクイズ大会を行うなど、親しみやすいイベントも企画して、美術に興味のない人にも足を運んでもらう。
- ・ 令和8年度は全国美術館会議が長野県立美術館を会場に開催され、全国の美術館人が信州にやってくる。ここでどういう発信をするかは一つの鍵。その点入口に貼ってある地中熱ヒートポンプに関する掲出物はアピールとなり得るし市民が誇れる美術館像になるのでは。気候変動、環境への配慮という観点は市の施策としても強調すべき。

5. その他

6. 閉会